

テーマ別研修会(2023.3.2)

- WordPress および プラグインについて

WordPressについて

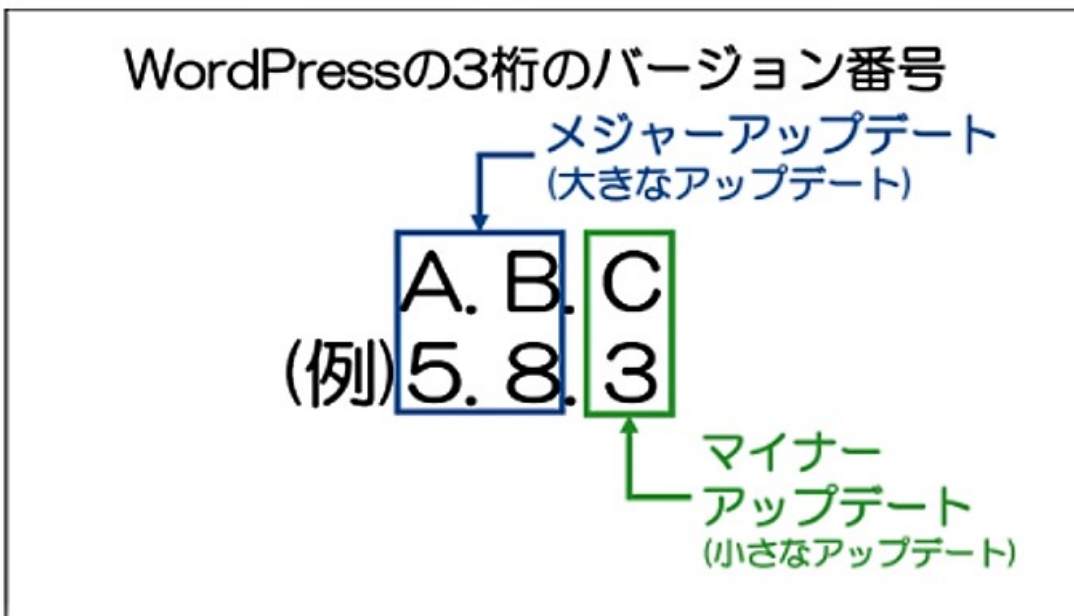
- WordPressはブログやウェブサイトを構築する際に使われるCMS（Content Management System）の1つで、マット・マレンウェッグ（現在、Automattic社のCEO）が2003年に最初のバージョンをリリースしてから、非営利団体の「WordPress Foundation」で現在も開発提供が続いています。
- CMSでは64%（日本84%）WEBサイトで43%の圧倒的なシェア。
- WordPressのライセンスはGPL（copyleft：著作権を残したまま商用、再配布も自由を与える）でオープンソースとして提供。

WordPressのメリットとデメリット

メリット	デメリット
シェア多い、情報豊富	初期構築のハードル高い
オープンソース	問い合わせ先がない
豊富なテーマ、プラグイン	不正攻撃、脆弱性
カスタマイズ	自分で更新管理
応用しやすいスキル	静的CMSより動作が遅い

- ◆ 参考資料 <https://ja.wordpress.org/>
<https://blog-bootcamp.jp/start/wordpress-share/>

WordPressの歴史



項目	メジャーアップデート	マイナーアップデート
バージョン番号	A,B,Cのうち最初の左2桁 (A,B) のアップデート (例) 5.9→6.0のアップデート	A,B,Cのうち3桁め (C) のアップデート (例) 6.0.1→6.0.2のアップデート
主な変更内容	新機能の追加 仕様変更 セキュリティ強化 不具合修正	セキュリティ強化 不具合修正
変更範囲	大きい	小さい
更新頻度	4~5カ月に1回程度	必要に応じて随時

WordPressバージョンアップ推移

- **WordPress 5.7.2** (21/5/13リリース) 【5.7～5.7.8】
- **WordPress 5.8** (21/7/20リリース) 【5.8～5.8.6】
 - ① WebP (ウェッピー) 対応～Googleが開発した新しい画像フォーマット
 - ② IE 11のサポート終了
 - ③ ウィジェットにもブロックエディターが採用
 - ④ メディアライブラリの無限スクロールが廃止
 - ⑤ WordPress 5.8.x～100件以上のセキュリティ問題とバグの修正
- **WordPress 5.9** (22/1/25リリース) 【5.9～5.9.5】
 - ① フルサイト編集 (Full Site Editing : FSE) 機能を導入
フルサイト編集とは、ヘッダーやフッター・サイドバーなどサイトのすべてのパーツをブロックエディターで編集できる機能
 - ② 画像の遅延読み込みがWordPress 5.5から導入
 - ③ ログイン画面での言語切り替えと遅延読み込みの改善
 - ④ WordPress 5.9.x～100件以上のバグ、3つのセキュリティ問題を修正

◆Webp参考資料

<https://ja.wordpress.org/download/releases/>

WordPressバージョンアップ推移

- **WordPress 6.0** (22/5/24リリース) 【6.0～6.0.3】 6.0.2は22/8/31
 - ① 500以上の機能強化と400以上のバグフィックスが行われました。
 - ② ブロックエディター～新しいブロックが追加
 - **WordPress 6.1** (22/11/1リリース) 【6.1～6.1.1】 6.1.1は23/1/6
 - ① 350以上のエディターの機能強化および350のバグ修正が含まれています。
 - ② ブロックエディター～Gutenbergプラグインの機能がマージされました
 - ③ データベースのパフォーマンスが大幅に改善
WP_Queryのデータベースクエリがキャッシュされるようになったことにより、データベースのパフォーマンスが大幅に改善されました。
 - **WordPress 6.2** (23/3/28リリース予定)
Gutenbergプロジェクトのロードマップにおけるフェーズ2最後のメジャーリリースとして計画されたものの1つです。
- 2014年のver.4.xでWordPressのベースができ、2018年のver.5.xで万人が凝った画面作成を可能するブロックエディターの導入。以降は進化継続中。近年のWordPressの頻繁のバージョンアップでも動かなくなることはない。

◆参考資料 <https://webgaku.net/jp/wordpress/version/>

WordPressのバージョン管理について

松愛会のWordPressバージョンアップ推移

稼働年月	本番サイト	PREサイト
2018年6月12日	WordPress 4.9.6	WordPress 4.9.6
2018年12月16日	WordPress 4.9.8	WordPress 4.9.8
2019年12月18日	WordPress 5.3	WordPress 5.3
2022年10月10日	WordPress 5.7.2	WordPress 5.4.1
2022年10月11日	WordPress 5.7.2	WordPress 6.0.2
2023年2月8日	WordPress 6.0.2	WordPress 6.0.2
2023年 ?	WordPress 6.0.2	WordPress 6.2.x
2023年 ?	WordPress 6.2.x	WordPress 6.2.x

今回のWordPress 6.0.2 バージョンアップ経過

1. PREサイトのWordPress6.0.2およびプラグインを最新にバージョンアップ 2022.10.11
2. プラグイン主管支部に再検証のお願い 2022.11.18
3. プラグイン主管支部に再検証済&報告 2022.12.27
4. 本番サイトのWordPress6.0.2およびプラグインを最新にバージョンアップ 2023.2.8

◆参考資料：WordPress導入マニュアル

「マルチサイトWordPress導入研修会 版4.6 2019年2月6日」

「マルチサイト WordPress 部会導入研修会 版1.5 2020年11月2日」

プラグインについて

● WordPressの「プラグイン」について

WordPressにおける『プラグイン』は『WordPressに新しい機能を追加するための仕組み』です。WordPressのコアは、柔軟性を保つため、不必要なコードでふくれあがってしまわないように設計されていますので、ユーザーそれぞれが特定のニーズに合ったプラグインを利用して、カスタム機能を取り入れられるように作られている。

● WordPressの『公式ディレクトリ』 <https://ja.wordpress.org/plugins/>

WordPressに標準で備わっていない機能は、通常『プラグイン』という形で配布されており、いずれも『公式ディレクトリ』を通して、WordPressの管理画面から無料でインストールできる。ただ公式でも長時間更新されていないものはリスクはあり。

● WordPressのプラグイン追加方法

● プラグイン導入に潜むリスクと注意点について

1) 導入は自己責任で導入し過ぎに注意

- ✓ WordPressのサーバーが重くなり、ページ速度が遅くリスクがあり
- ✓ 使わなくなったプラグインは無効化、削除する
- ✓ プラグインのバージョンは出来る限り最新に更新をおこなう

2) ウイルスやハッキングに注意

- ✓ 安全面から見るとプラグインの使用は出来るだけ抑える
- ✓ 使うなら常に最新のセキュリティ・リスクの情報を入手してチェックを怠らないのが鉄則。

3) 利用するテーマとの相性を確認

WordPress・プラグイン導入ルール

- 松愛会 WordPressおよびプラグインのバージョンアップについて
- 松愛会 新規プラグインの導入について

松愛会 WordPressおよびプラグインのバージョンアップについて

- ① WordPressおよびプラグインのバージョンはセキュリティの脆弱性およびバグ対応の面から出来る限り、最新バージョンを導入していく。
但し、検証作業が多大にかかるため、随時ではなく定期的にやっていく。
- ② WordPressおよびプラグインのバージョンアップについて、PREサイトで新しいバージョンをまず導入し、各プラグインにて問題がないかを検証した上で本番サイトでバージョンアップを行う。
- ③ 本番サイトとPREサイトでのWordPressおよびプラグインのバージョンは基本、同じものとしていく。
- ④ プラグインの最新バージョンの導入可否検証は、導入している支部からプラグイン主幹支部を決めて、検証をお願いする。その結果をHP委員会で審議して最新バージョンの導入可否を決める。

松愛会 新規プラグインの導入について

- ① 新規プラグインの導入は、支部の申請に基づきHP委員会にて導入可否を審議する。
 - ✓ 新規プラグイン申請は「ルールの変更について（HP20230202）」に拠る
- ② HP委員会のプラグインの導入可否は、次の事項で決めていく。
 - ✓ 全支部が使用可能なもの
 - ✓ マルチサイト対応されているもの
 - ✓ WordPressの公式ディレクトリに登録され、更新が定期的にされ、使用ユーザ数も多いもの
 - ✓ 既登録されたプラグインと干渉し合い、不具合が発生しないこと
 - ✓ セキュリティ面で安全であること

別資料として

1. [WWWプラグイン一覧230302\(最新\)](#)
2. [プラグイン概説](#)

プラグインの内容説明

- 本番およびPREサイトプラグイン一覧と簡単な説明
別資料：「WWWプラグイン一覧230302(最新)」
「プラグイン概説」

- 今回新規追加したプラグインについて

① Classic Widgets

ブロックエディターになったウィジェットを従来のクラシックエディターのウィジェットに戻す。
クラシックエディターを使用の間は、サイトネットワーク（常に有効化）に設定する。

② Gallery Custom Links

ギャラリー（画像）で個々の画像からURLリンクができる。

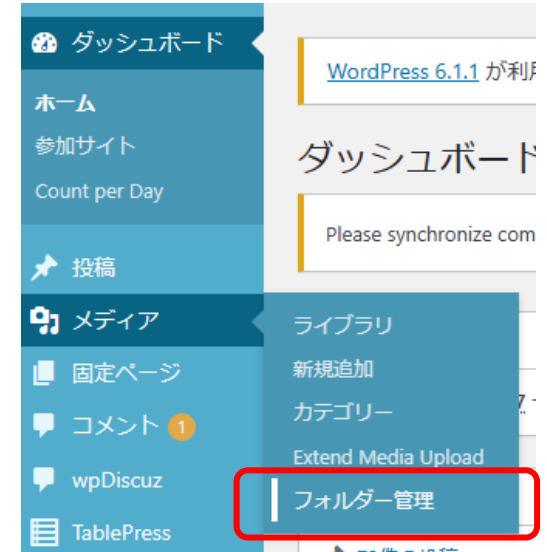


The screenshot shows the 'ギャラリーを編集' (Edit Gallery) interface. It features a main area with three image thumbnails, each with a 'リンクできる' (Linkable) label below it. A button labeled '順序を逆にする' (Reverse order) is located in the top right. On the right side, there is a settings panel with a list of checkboxes for various activities and a section for linking. The 'Link URL' field is highlighted with a red box and contains the text 'https://www.shoai.ne.jp/'. Other fields include 'Link Target' (set to 'Same page'), 'Link Rel', and 'Arial Label'.

プラグインの内容説明

➤ 今回新規追加したプラグインについて

- ③ Advanced Contact Form7 DB
Contact Form DB関連プラグインで機能追加。
- ④ Organize Media Folder
(Organize Media Library by Folders の後継)
メディアファイルのフォルダー管理。(右図)
サイトネットワークでないので使用には有効化が必要。
メディアの容量に制限あり。大容量使用の支部は、
Organize Media Library by Foldersを当面、使用。



➤ プラグインの機能アップ

- ① Yoast Duplicate Post (旧名称 : Duplicate Post)
WordPressの投稿・固定ページを複製できるプラグインで、
書き換え & 再公開が新たに追加された機能。(右図)
複製した記事で書き換えを編集し、完成した段階で複製
元の記事にマージができる。既存の投稿・固定ページを直
接、大きく修正追加変更する場合に有効。



参考：WordPressの脆弱性

■ WordPressの脆弱性は、大きく分けると以下の2種類です。

- ① WordPress自体の脆弱性
- ② 付随するプラグインの脆弱性

■ WordPressを利用での考慮点

- ・国内外で発見される脆弱性を確認しておく
- ・WordPressを常に最新バージョンに保つ
- ・テーマ・プラグインも常に最新バージョンに保つ

■ WordPressの脆弱性の具体的な事例

2017年2月に起きたREST APIの脆弱性をついた攻撃では、155万を超えるサイトが**改ざん**される被害が出ました。WordPressに関連する脆弱性のなかでも最悪に分類されるとも言われています。

■ 2021年から2022年に発見されたWordPressの脆弱性

記事記載時点（2022年1月）で169件を紹介

公表日が新しい順に発表されている脆弱性を見ても、すべてプラグインの脆弱性となっています。 参考：脆弱性対策情報データベース検索

◆参考資料

<https://www.securify.jp/blog/wordpress-vulnerability/>

<https://wp-exp.com/blog/plugin/>

参考：ブロックエディタについて

- ブロックエディタ（Gutenberg：グーテンベルクという名称で呼ばれる）とは
 - ✓ ホームページ作成ツール（wix.com等）に対抗して、WordPress5.0から標準搭載となったエディタで、バージョンが上がるたびに進化し続けている
 - ✓ 文章や画像などをブロックという単位で管理し、レイアウトを直感的にデザイン編集でき、高機能のためHtml&CSSが不要となる完成度が高い
 - ✓ グーテンベルグ対応のテーマも追隨中
- 検討事項として
 - ✓ クラシックエディタの動向に注目（2024年まで？）
 - ✓ 松愛会での導入可否検討と導入方法（次世代のために）
 - ✓ ブロックエディタとクラシックエディタの切り替え
- ブロックエディタを見る

◆ 参考資料

<https://learn.wordpress.org/>

<https://wp-exp.com/blog/block-editor/>